

団体・組織の概要

※太枠内、必須事項。その他は、該当する項目を記載してください。

団体/会社名	ミキッズデザインスタジオ		
代表者	かわじみき	担当者	かわじみき
所在地	〒156-0052 東京都世田谷区1-1-5-203 TEL:03-5450-0171 FAX: 03-5450-0171 E-mail: info@mikids.jp		
設立の経緯 ／沿革	2001年、空気デザイナーかわじみきの企画デザイン事務所として設立。プロジェクト単位でのチームを発足。関わったいるスタッフはインターン、アシスタント、フリーランス、協力会社など30名以上		
団体の目的 ／事業概要	サステナブルデザイン・キッズデザインの研究と制作専門スタジオ。リサーチからグラフィック、ウェブ構築、エコプロダクト開発、空間演出、ワークショップ開催・サポートなどを行う。代表のかわじは執筆・講演なども。グリーンクリエイターズネットワークを発足しライター編集者、建築家、研究者など、ジャンルを超えたクリエイター達への勉強会と新規事業プロジェクトの発足と協業などの場を提供。自治体、NPOや大学などの研究機関との連携を重視。サステナブルな社会のためにデザインワークで貢献することがミッション。		
活動・事業実績 (企業の場合は 環境に関する 実績を記入)	<p>■サステナブルリサーチ・編集・執筆・講演</p> <ul style="list-style-type: none"> ・NYにてロハスマーケット2005／エコプロダクト／カーボンオフセット付商品／エコマーク／グリーンフレンドリーペーパーパッケージ／エコビレッジ／環境配慮紙、エコプリントのリサーチとレポート、紙見本帳制作／グリーンテクノロジー／色素増感型太陽電池のリサーチ・新エネルギー、エコデザインに関する執筆 ・地方の中小企業組合、メーカー・大学研究者団体でのエコデザイン講演 <p>■エコプロダクト企画開発・ブランディング</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地方自治の間伐材、伝統工芸(漆器)のリサーチとプロトタイプ制作 ・キッチンガーデン用パッケージング ・地域で共有できるエコプランターの開発 ・子供用コンピューターデバイス 姿見鏡 木製デザイン ・段ボール素材での防災用キッズグッズの開発 ・個々での絵本つくりのための木製製本キットの提案とプロトタイプ制作 <p>■グラフィックデザイン制作</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワールドカップナショナルチーム時計メーカーPR フリーペーパー企画編集デザイン(環境配慮紙の提案、ピースボールの呼びかけを提案) ・(株)花王 ヘアケアブックの企画編集デザイン(環境配慮紙の提案／本の寿命を伸ばすための装丁の提案／不変的な内容での編集を提案) ・環境NPOのための環境教育用太陽電池付ポップアップ絵本の企画制作(岐阜大学 色素増感型太陽電池研究との協業) <p>■ワークショップ・学校支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世田谷教育委員会運営のせたがや e カレッジにて、親子参加エコデザインワークショップ開催(テーマ1.3R ゴミから食／古着、茶かすなどからパルプを作りそれを原料とした植木鉢を制作、植木鉢で育てた野菜を食べる)(テーマ2新エネルギー／東大工学部協力のもと発電する靴の教材制作し発電体験を提供。岐阜大の次世代太陽電池紹介等) ・地域小学校の環境教育支援・世田谷区ストップ温暖化説明員メンバー <p>■エコプロダクト展、サステナブルデザイン国際会議にて作品発表</p> <p>■グリーンクリエイターズネット運営(学校建築設計士〜エコライターなどが所属)</p>		
ホームページ	www.mikids.jp		

提言

■政策の分野

- ・環境パートナーシップ
- ・社会経済のグリーン化

■政策の手段

- ・環境教育ESDの推進
- ・地域活性化と雇用

団体名：ミキッズデザインスタジオ

担当者名：かわじみき

■キーワード	環境教材デザイン	市民発の教材開発	研究機関/メーカー/NPOとの教材商品作り	デザイナーのESD
--------	----------	----------	-----------------------	-----------

① 政策の目的

ESD普及におけるデザイナーの役割とは？ESD(Education for Sustainable Development)を考慮にいた、教材のデザインリサーチおよび開発、プロトタイプ作成と教育現場の教材リサーチと支援。教材の商品化のためのリサーチ販路調査、中小企業（教材メーカー）とのマッチング。サステナブルデザイン領域での情報収集と出版、デザイナーのためのESDプログラムの調査。環境教育へのデザイナーの役割を事業化する。

② 背景および現状の問題点

問題は2つ。地域で各々子供のための環境教育活動団体があり独自でプログラムを開発しているが、イラストやデザインなどのスキルがない為、内容はよくてもビジュアル的に固くなったりと伝わりづらいケースもある。上からの教材支給ではなく市民レベルでの開発は重要だと考えるが、自治体での貸し出している教材も完成度の差がバラバラ。2つ目はデザイナーの情報不足。30代40代のエコデザイン教育を受けることができなかった世代に対しての、再教育の場が少ない。この世代のディレクション1つで企業提案に影響を与えることができる為、正確な情報と考え方の場が必要だが、国内外のまとまった情報(出版物)がなく、デザイン業界のサステナブル教育はまだまだ発展途上(各協会でやっているがまとまったのプログラムはない)。デスクワークとしてでなくNPOとの協業や個々レベルでの環境体験(間伐や農業体験など)を通しデザイナーのためのESDプログラムがほとんどない。

③ 政策の概要

市民発、地域発の環境活動でのツール作成のサポートをデザインワークを通してしていくというもの。そういった活動のなかで、ESDを普及していく。調査、課題、検討、解決案、具体的な計画、それに対しての意見調査、実証実験、商品化へマーケティングまでを行う。

地域オリジナルを重視。教材に関してもその土地の大学研究、企業、地場産業などでのマッチングした開発が望ましいが、プロトタイプは1年と通じ、1つの地域での調査が現実的。そのノウハウをレポートとして残し、事例として役立てることが目的。

また、国内外のサステナブルデザイン情報、エコデザインの方法論などを調査し、データベース化し組織での提供、もしくは出版物として広く普及する事業の展開。

デザイナーがEDSの現場で一参加者として体験できる場を提供。サステナブルな社会とは？という地球レベルでの視点を持ち、環境教育にも関わっていけるようなネットワークを形成。

④ 政策の実施方法と全体の仕組み（必要に応じてフローチャートを用いてください）

(1) 環境教育プログラムと教材の現状調査

環境教育教材に対する国内外の NPO (特に企業とのパートナーシップを形成している NPO)、NGO、団体、自治体、企業の考え方の現状を調査し、分析する。具体的には、文献調査のほかに、インタビュー調査を行う(特に海外については、ユネスコや行政機関への連携をとりインタビュー、現地取材など)

2つのカテゴリーでの調査

子供のための環境プログラムと教材 / デザイナーのための環境教育プログラムと教材

(2) ESD における教材のデザイン評価基準のリサーチ

客観的な「評価基準」の調査。NPO や政府、環境教材制作実務者やサステナブルデザインの専門家、国際組織研究者などを講師として招聘し、意見交換を行う公開フォーラムを数回開催する。グリーンクリエイターズネットワークもしくは、NPO 内に委員会を設置も検討。

デザイナーも実際に ESD プログラム体験参加。

(3) データベース作成、レポート作成 / 出版原稿の準備

(4) 団体による改良の要望と評価基準に基づきプロトタイプ作成

教材メーカー、テクノロジー研究機関、マテリアル開発メーカーなど共同開発企業を公募。

商品化への具体性のあるデザインコンサプト・スケッチを作成。予算が出ればプロトタイプも作成。できれば地場産業のマテリアルを使用したい。

(5) 教材のアイデアへのフィードバック調査、展示会出展

フォーラムでの意見収集、モデル自治体、学校を1つ決め、実際に使ってもらっての調査。

デザイナーも実際に体験参加。サステナブルデザイン国際会議での出展での調査。

(6) マーケットへの調査

⑤ 政策の実施主体 (提携・協力主体があればお書きください)

候補

mikids design studio グリーンクリエイターズネット

日本ユネスコ協会連盟

ESD-J

環境パートナーシップ

財団法人地球環境戦略研究機関

日本環境教育フォーラム

教育大学

FOE

WWF

日本環境教育学会

グリーン購入ネットワーク

日本インダストリアルデザイン協会 環境委員会

国際デザイン交流協会

サステナブルデザイン国際会議 事務局

エコプロネット

ソーシャルデザイン21

O2

⑥ 政策の実施により期待される効果 (具体的にお書きください)

市民発の教材開発でデザイナーとの連携により、よりクリエイティブな教育現場となり、教育者のモチベーションも上がり、ESDの普及にもなる。インフォメーションデザインのプロが入ることにより、子供達に楽しく伝わる仕掛けができ、学習力も向上する。

中堅デザイナーがESDを体験し、海外のサステナブルデザインの現状、問題点などの情報を得ることにより、意識が高まり、企業、産業へのパラダイムシフトの加速の助けになる。

例えば、大量生産大量消費に関して振り返り、紙などのマテリアルひとつ選ぶにしても、考慮できるようになり、ステークホルダーとの接点を通じ、世界規模での物質の流れを感じることで、印刷工程、向上での生産工程での環境配慮まで意識できるようになる。エンドユーザーの心をつなぎ、動かすことができるデザインワークが変化すれば、産業、教育にも影響を与えることができる。

日本のグリーンテクノロジーを採用した教材ができれば、世界へ提案できる商品として市場開拓にもなる。

⑦ その他・特記事項

食育と新エネルギーに絞りこんでの教育教材にすべきか、絞り込んだプランを再考する必要があるため、委員会で、さらにブラッシュアップしたい。

岐阜大学、色素増感型太陽電池や、間伐材を使用した食育用の食器開発、バイオプラスチックなど研究機関のテクノロジーも調査して、協業で開発できるといい。

mikids design studio PRODUCT DESIGN



クライアント NPO フット神戸さま

薄くてカラフルな次世代色素増感型太陽電池付き。
環境学習ポップアップ絵本の企画編集制作
mikids design studio かわじみき
※他のページは新エネルギーのお話
※本誌はFSC紙を使用

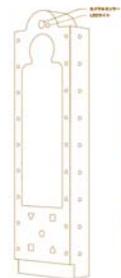


mikids design studio PRODUCT DESIGN

コンセプト 岐阜大学が 浜玉野郎
デザイン mikids design studio かわじみき

人の動きに応じて、自動的に展開する子供用装置。子育て中の親は育児に追われ、ゆっくり展開などできないが、自然の仕組みを真似て、親しておきたい瞬間。

デザイン時に、装置の断面、下のところに穴をあけ、中にマジックテープをつけ、手回りの仕組みがくっつくことを確認。マジックテープの幅を測らずに完全に穴になり、装置の中心にライトを入れたと確認できるとなり、成長した後でも、使用できるようにした。



コンセプト 岐阜大学が わたなべひいた
デザイン mikids design studio かわじみき

プロダクト自体を押し込みたりして動かすことにより、マウスが不要。ソフトを操作できる。感覚的なインタラクティブコンピューター。
写真を複製できるシートが購入され、装置で複製した写真をみることもできる。横にスライドしながら読める写真を見ながら読んだりしたいとする。その写真も横に滑った写真が拡大され、画面いっぱいに見ることができる。



観覧車が出ます

太陽電池に光を当てたり過ったりすると電池のメーターが変わります

光で発電している時メーターが動きません

世田谷区での環境教育、食育のネットワークでの都市での教育という風に絞ってリサーチすることも考えられる。トラストまちづくり財団や世田谷教育委員会、環境学習会（シニア層の環境団体）、NPO申請中のライターデザイナー料理研究家によりコミュニティ農園の建設とワークショップなどとの協業など。